

# 子ども主体で「一緒に楽しむ場所作り」を

最近、子ども食堂を代表とする、子どもたちを支援する団体のニュースをよく目にします。今回は、名古屋でお母さんや子どもたちと向き合う活動をしている名古屋おやこセンターの理事長・竹内さんにお話をうかがいました。

## 子どもの目線で、体験を大事にする

組織の立ち上がりは1971年、子どもたちに生の舞台を楽しんでもらおうという想いから、「名古屋おやこ劇場」を創立したところから始まりました。当初は子どもの対象年齢を4歳からとして事業を進めていたそうですが、「子どもの育ち」を支援するのに4歳からでは遅すぎるのではないかと感じ、現在は広くすべての子どもたちの笑顔のためにという意味で「0歳から18歳まで」に変更したそうです。子どもたちを「個」ではなく「地域」で育てることを念頭において、さまざまなプログラムを実施しています。

鑑賞事業に関しては、「親と子で一緒に見る」ということを大事にしています。子どもが一生懸命楽しかった場面を話しても、親が見ていなければ、どこに感動し興味をそられたかが分かりません。親子と一緒に見ることで、「楽しいね」と共有できることを大切にしています。

すべてのプログラムは、子どもの気づきを大事にすることを基本に作っているそうです。小学校1年生から3年生までの子どもが参加するプログラムでは、子どもたちの生き生きした様子をスタッフがきちんとお母さんたちに報告しています。サイエンス事業では、子どもだけでなく大人でも「分からない」「どうしてだろう」という内容があり、その「問い合わせ」が大事で、大人にとっても学びの場になっているようです。「子どものまち」では、子どもたちが自ら考えて何をしたいのか決めていき、自分たちの力を発揮できる場所を作ります。その場に来てくれる子どもたちが



## Information

特定非営利活動法人 名古屋おやこセンター

〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-14-12 グランビル2B TEL:052-205-8881 FAX:052-205-8882

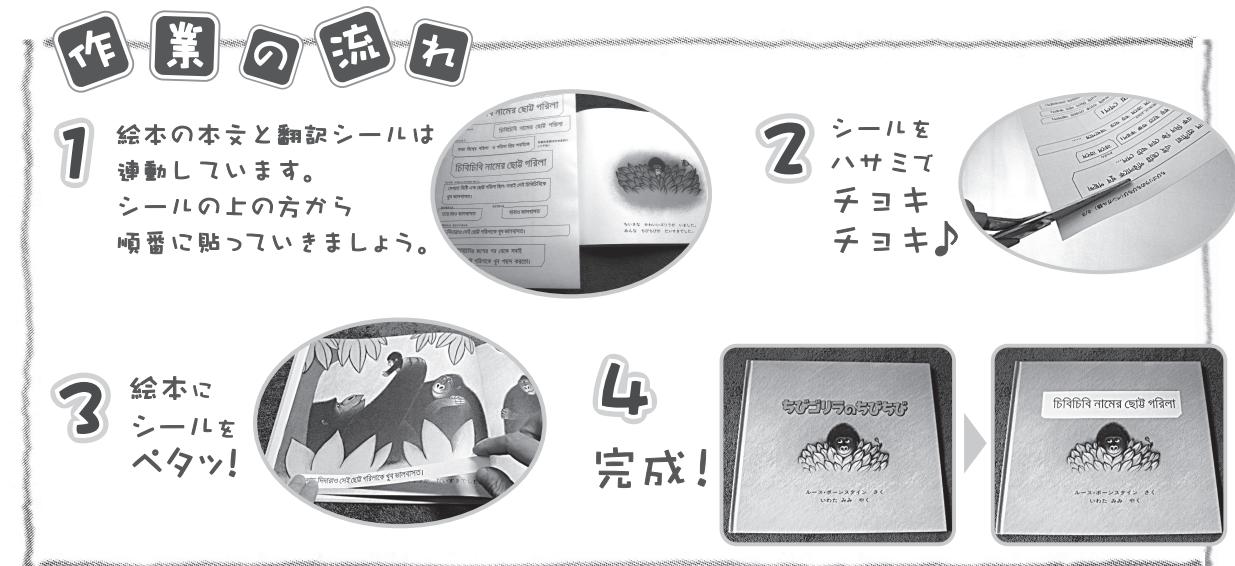


# 翻訳絵本で世界に笑顔を広げよう!

認定NPO法人 ESAアジア教育支援の会「ゾウさん文庫」プロジェクト

幼い頃、家族や学校の先生に絵本や紙芝居を読んでもらった記憶はありませんか? 学校に行けば図書館があり、時には読書感想文なんて宿題もあったりして、私たち日本人にはとても馴染みのある「本」ですが、海を渡ればそんなに簡単に手に入る代物ではない国もあるのです。

東京都に拠点を置く認定NPO法人 ESAアジア教育支援の会では、「教育こそが子どもの未来への道」という言葉をスローガンに、1979年から、アジアの子どもたちが貧困と差別を乗り越えられる教育環境を目指し、現地での学校の建設や子どもたちへの基礎教育支援、教師や社会的リーダーの育成などに取り組んでいます。その一環と



普段目につくることのないベンガル語やネパール語はまるで暗号のようですが、翻訳シールを貼っていくうちに、前のページと同じ文字を見つけて内容が読み取れた時には、ちょっとした感動があります。そして、完成した翻訳絵本をESAアジア教育支援の会に返送して一連の作業は終了。自分の作った翻訳絵本が海を渡って現地に届けられ、目を輝かせながら絵本を読む子どもたちの姿を想像するだけで、こちらまで幸せな気持ちになります。最終的には絵本の発送状況や届けられた現地の様子、子どもたちの感想などを

## Information

認定NPO法人 ESAアジア教育支援の会

〒201-0014 東京都狛江市東和泉1-23-3-101

TEL:03-5497-2261 (月・水・金 10:00~17:00) FAX:03-5497-2262

E-mail: info@esajapan.org HP: http://www.esajapan.org

して始まったのが、バングラデシュやインドの子どもたちに翻訳絵本を届ける「ゾウさん文庫」プロジェクトです。

プロジェクトには1名からでも申し込みができ、規定の料金を支払えば手元に翻訳絵本のセットが届きます。中を開けると、日本語の絵本・翻訳シール・現地語あいうえお表・翻訳絵本の作り方説明書が入っており、他に用意するのは切れ味の良いハサミだけ。そして作業はとっても簡単! 日本語の絵本と連動した翻訳シールを切って、絵本に直接貼るだけです。所要時間は1時間ほどで、小学生のお子様でもご参加いただけます。

